



～お葬儀屋さんのひとりごと～

葬にまつわる体験談集

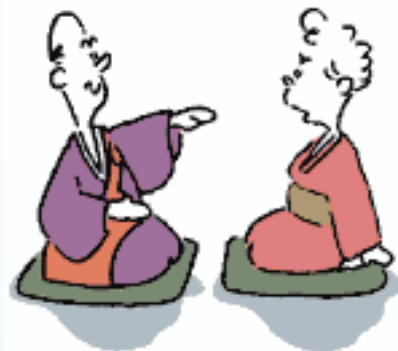
■ 戒名の値段 [女性 78歳]

「戒名は、院にしますか、居士にしますか、それとも信士でよろしいでしょうか」と、聞かされて、まごつきました。父が亡くなった時のことです。枕経が終わって、戒名をつける段になってからです。なんのことやら、わかりませんので、尋ねましたところ、住職の話では、戒名には、大別して男性の場合は、院と、居士と、信士があるということでした。例えて言うなら、院が大学卒とすれば、居士は高校卒、信士は中学校で、社会に出る時にランク付けされるように、あの世に行っても戒名でランクづけされるということでした。

それでは、いちばん上等の院でお願いしますと言うと、院は戒名料が50万円以上になっていますということでした。「お布施、心付け、葬儀費とは別ですよ」これには驚きました。では、予算の関係もありますので、他のを聞くと、居士ならば30万円以上です。信士にされますと普通のお布施で結構という話でした。

さあて？ と、身内一同、鳩首緊急会議となったわけですが「死んでからまで、そんな差別があるもんか」と、言う者と「いや、輪廻転生というて、つまり靈魂は不滅げな、いろいろなものに生まれかわるそう。三界（欲界、色界、無色界）や、六道（地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上）に、生死を繰り返して永久に苦しむという、同じ人間に生まれ変わっても、生まれどころの良いか、悪いかで、その人の一生が左右される。それが戒名のランク付けじゃろう」と、変に詳しいのが出て、喪主なる私は大いに迷ったものでした。それも宗派によって違うようですが、念のためです。前もって知っておいて損はないはず。これからお葬式をする人に、一言、アドバイスです。

※浄土真宗では「戒名」のことを「法名」と言います。宗派や寺院により様々ですので、詳しくはお世話になっているお寺様にご相談するのが良いと思います。



■ 家系図 [茨城県 男性 71歳]

私たち夫婦は共に70歳を越えているし、また90歳の両親を送ってから、7年になる。

私が家系図の作成を思い立ったのは、両親を亡くしてからである。私は長男だが、両親が80歳を越えるころまで仕事の関係で、ずっと別居していたので田舎の実家での様々な付き合いは、ほとんど両親任せであったから、両親を亡くしてから、何かにつけて困ることが多くなった。

例えば、年回忌の法事をやるときに誰と誰を呼ぶべきか、席順はどうなのか、どの程度の付き合いの人なのか…といったことがよく分からない。大体は近くの親戚の人がやってくれるのだが、昔のことを知っている年寄りも年々いなくなってしまふ。そこで、大きな和紙に自分で分かる範囲の家系図を書いておいて、お盆やお彼岸や法事など、親戚にあえる機会に必ず持参して、書き足すようにしている。これは大変便利で、親戚同士お互い知らないことも多く、特に親を亡くしている若い世代の人達からは、是非コピーを欲しいといわれている。この表は、書き始めてから4、5年たつが今では、余白がほとんどないくらいで、ほぼ完成している。

元々私は日記をつけたり、色々と記録をすることが好きなので、なにか将来に残すものを作りたいと思っていたのが、この家系図一巻を手始めに、両親の葬儀、一周忌、七回忌などの記録を巻物の形で残しておこうと思っている。こういった祖先の書き残した古文書を見る度に、祖先が身近に感じられ、仏壇での礼拝にも身が入るような気がする。

